

*** 今日の健康(6月) ***

<日本脳炎と予防接種>

(1) 日本脳炎の概要

日本脳炎は、日本ではコガタアカイエカが媒介する日本脳炎ウイルスによって引き起こされ、潜伏期間7～10日、突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害及び痙攣等を主徴とする重篤な脳炎です。かつては死亡、後遺症がそれぞれ約30%といわれ、現在では死亡率15%程度で、神経学的後遺症を残す例が多く報告されています。感染者1,000～5,000人に1人が脳炎を発症すると考えられています。脳炎以外に不全型無菌性髄膜炎、夏かぜ様疾患もみられます。

最近では毎年10人以下ですが西日本地区を中心に発症しています。多発年齢は60歳を中心とした成人とまれに5歳未満の幼児です。かつて好発年齢であった小児、学童は予防接種対象年齢にあたっており、現在はほとんど発症がみられなくなりました。

食用として毎年多数出生、飼育されているブタが日本脳炎ウイルスの増殖動物とされています。豚間の流行は毎年6月頃より始まり、東北以南では多くの県で10月までに80%以上の感染率を示します。ブタからヒトへの感染はコガタアカイエカが媒介します。ヒトは終末宿主であり、ヒトからヒトへのウイルスの伝播はありません。自然界における宿主や日本への伝播経路などについてはなお不明な点が多く、日本脳炎は日本以外にも東南アジア及び東アジアに広く分布し患者が多発しています。



(2) 予防接種

アジア地域ではもっとも頻度の高いウイルス性脳炎であり、中国、その他の東南アジア、インド及びオセアニアで毎年約50,000件の散発及び流行が報告されています。

定期予防接種での対象年齢と標準的な接種年齢

対象年齢	日本の標準的な接種年齢 [間隔(接種回数)]
1期初回：生後6～90ヶ月未満	---3歳 [1～4週間隔で2回]
1期追加：生後6～90ヶ月未満	---4歳 [1期初回終了後概ね1年後に1回]
2期	： 9～12歳-----9歳(小学4年) [1期追加終了後4～5年後に1回]

日本脳炎の基礎免疫が予定通りに接種できなかった場合は医師に相談して下さい。

(3) 予防接種の効果

初回接種2回と次年度の追加接種1回の計3回接種をもって基礎免疫の完了と考えます。抗体産生は良好で、基礎免疫後4～5年程度は抗体が持続します。その後4～5年毎に追加摂取をして抗体を持続させます。台湾やタイでの大規模な野外接種試験で、日本脳炎ワクチン2回接種群は80%以上の有効率を示し、非接種群に比して自然感染に対する優れた防御能を示しました。